

2017年3月13日

2016年度 自己点検・評価活動

—委員会活動報告—

—自己点検・評価委員会—



## 2016 年度 委員会活動 実施状況 報告書

### 人事委員会

<p>&lt;実施内容&gt;</p> <p>人事委員会では、2016 年度に、①専任教員の採用、②専任教員の昇格、③客員教授の嘱任、④非常勤講師の任免、⑤名誉教授の称号の授与等の事項について、検討を行った。</p>
<p>&lt;実施内容の検討過程&gt;</p> <p>人事委員会では、2016 年度に、上記の 5 つの項目に関して、下記の 5 回の委員会を開催して検討を行った。</p>
<p>&lt;実施日（時期）&gt;</p> <p>2016 年度の人事委員会の開催日時は、下記の通りである。</p> <p>第 1 回：2016 年 4 月 11 日（月）12:10～12:40</p> <p>第 2 回：2016 年 6 月 4 日（土）15:00～16:00</p> <p>第 3 回：2016 年 11 月 28 日（月）13:00～14:00</p> <p>第 4 回：2016 年 12 月 12 日（月）13:00～14:00</p> <p>第 5 回：2017 年 1 月 14 日（土）14:30～15:00</p> <p>第 6 回：2017 年 1 月 28 日（土）13:30～14:30</p> <p>第 7 回：2017 年 2 月 6 日（月）15:00～16:00</p>
<p>&lt;実施結果&gt;</p> <p>2016 年度の人事委員会の審議事項は、下記の通りである。</p> <p>第 1 回：名誉教授の称号の授与</p> <p>第 2 回：非常勤講師の任免</p> <p>第 3 回：専任教員の採用</p> <p>第 4 回：専任教員の昇格、専任教員の採用</p> <p>第 5 回：客員教授の嘱任、専任教員の採用</p> <p>第 6 回：専任教員の採用</p> <p>第 7 回：専任教員の採用</p>
<p>&lt;今後の課題&gt;</p> <p>本学は、任期付の契約教員が多いことから、短期間で退任する教員が多い。学校運営を安定的かつ継続的に行う観点から、テニユア教員の増員を図ることが必要である。これは、財源を伴うもので短期的に改善するのは難しい面があるが、人事委員会としては継続的に検討を行っていく所存である。</p>

## 2016 年度 行動計画事項 実施状況 報告書

### カリキュラム・人事委員会

<p>&lt;行動計画&gt;</p> <p>2016 年度以降、引き続き、専門ゼミに占める専任教員の比率を高める（2017 年度は実施済み）</p>
<p>&lt;実施計画の検討&gt;</p> <p>2015 年度は、非常勤講師が担当する専門ゼミは 1 つであったが、2016 年度は、2015 年度に専門ゼミを担当していた専任教員が退任して、引き続き、非常勤講師として専門ゼミを担当したことから、結果として非常勤講師が担当する専門ゼミは 2 つに増えた。</p> <p>このことを踏まえて、2017 年度以降は、専門ゼミにおける専任教員の占める比率を高める予定である。</p>
<p>&lt;実施日（時期）&gt;</p> <p>2017 年度以降も、継続的に専門ゼミにおける専任教員の比率を高める施策を実施する予定である。</p>
<p>&lt;実施結果&gt;</p> <p>2016 年度に専門ゼミを担当していた教員を 2017 年度から専門ゼミの担当からはずすことにより、専門ゼミにおける専任教員の比率は、<math>5/7(=71\%)</math>から <math>4/5(=80\%)</math>に高まる予定である。</p>
<p>&lt;今後の課題&gt;</p> <p>本学では、専門ゼミは、担任的な役割を果たす面も大きく、ゼミを連携して運営していく面からも、原則として、専任教員が担当することが望ましいと考える。この観点からも、今後も専任教員の比率は高めていく方針であるが、ゼミの設置にあたっては、本学のカリキュラム上で必要なゼミの検討、ゼミ担当能力のある人材の確保が必要なことから、カリキュラム委員会、と人事委員会の連携をはかって対応を行う所存である。</p>

## 2016 年度 行動計画事項 実施状況 報告書

カリキュラム委員会

<p>&lt;行動計画&gt;</p> <p>2017 年度のシラバスに「事前学習」等の項目を盛り込むか検討する。</p>
<p>&lt;実施計画の検討&gt;</p> <p>いくつかの大学のシラバスについて、「事前学習」等に該当する項目を調査し、2017 年度シラバスにどのような形で盛り込むか検討する。</p>
<p>&lt;実施日（時期）&gt;</p> <p>2017 年 1 月 28 日カリキュラム委員会にて決定。</p>
<p>&lt;実施結果&gt;</p> <p>2017 年度シラバスに「授業外学習」として項目を設け、事前学習と事後学習について記述することとした。</p>
<p>&lt;今後の課題&gt;</p> <p>個別の講義科目について、実際に記載されたものはまだ検討されていないため、今後の課題となる。</p>

## 2016 年度 行動計画事項 実施状況 報告書

### カリキュラム委員会

<p>&lt;行動計画&gt;</p> <p>一部科目における成績配分の不均衡是正に向けて、カリキュラム委員会で成績評価のガイドラインを示す資料を作成し、科目担当の教員に配布する（実施済み）</p>
<p>&lt;実施計画の検討&gt;</p> <p>成績評価について、著しく不均衡な配分を抑制するための資料を作成し、成績評価の依頼時に資料を配布することとした。</p>
<p>&lt;実施日（時期）&gt;</p> <p>2016年7月、2017年1月に配布。</p>
<p>&lt;実施結果&gt;</p> <p>資料「成績評価についてのお願い」を作成し、成績評価の依頼時に教員全員に配布した。資料では、本学の成績評価について再確認を促すとともに、評価分布のイメージとともに、著しく不均衡な評価配分が適正ではない説明を記載した。</p>
<p>&lt;今後の課題&gt;</p> <p>実際の評価配分については、今後検討する予定である。</p>

## 2016 年度 行動計画事項 実施状況 報告書

### カリキュラム委員会

<p>&lt;行動計画&gt;</p> <p>運転シミュレータ館を活用した授業の内容について、2017 年度に向けて見直しを行い、より多くの学生が履修できるカリキュラムの配置を検討する。</p>
<p>&lt;実施計画の検討&gt;</p> <p>運転シミュレータ館を活用した「鉄道基礎」を 2016 年度前期及び後期に開講したが、その履修状況を把握した上で、2017 年度のカリキュラムの配置について検討することとした。</p>
<p>&lt;実施日（時期）&gt;</p> <p>2016 年 11 月～2017 年 2 月</p>
<p>&lt;実施結果&gt;</p> <p>前期については、履修希望者がシミュレータ館の定員を上回ったため、抽選により履修者を決定したが、後期については定員に満たなかったことから、今年度については同科目の定員は大きな問題にはならなかった。</p>
<p>&lt;今後の課題&gt;</p> <p>今年度は学生数が少なかったことから問題とはならなかったが、2017 年度については、学生数が増える予定であり、後期の履修者も抽選となる可能性があるため、時間割については 2016 年度よりも学生が履修しやすい配置とし、2017 年度に再度検討する必要がある。</p>

## 2016 年度 委員会活動 実施状況 報告書

### 図書委員会

<p>&lt;実施内容&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"><li>① 学生の図書室利用促進（学生一人あたり貸出冊数の増加）</li><li>② 教職員への所蔵図書の推薦依頼</li><li>③ 寄贈図書の受け入れに伴う委員会規程の改定</li><li>④ 「交通・運輸に関する文献やデータの調べ方ガイド」の作成</li></ol>
<p>&lt;実施内容の検討過程&gt;</p> <p>毎月1回、委員会を開催して、上記①～④について施策を検討し、実施した。</p>
<p>&lt;実施日（時期）&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"><li>① 基礎ゼミ・専門ゼミ担当の教員を通じて利用促進を依頼</li><li>② 5月、7月、10月、12月に非常勤講師を含む全教職員に依頼</li><li>③ 1月</li><li>④ 7月</li></ol>
<p>&lt;実施結果&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"><li>① 学生ののべ利用者数：3,719人（2月18日現在、前年度3,370人） 学生一人あたり貸出冊数：5.3冊</li><li>② 教職員からの推薦点数：のべ16名、57点推薦、48点新規収蔵</li><li>③ 寄贈図書の受け入れに伴う委員会規程の改定</li><li>④ 「交通・運輸に関する文献やデータの調べ方ガイド」を作成し、希望する学生に配布した。</li></ol>
<p>&lt;今後の課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・継続的に利用促進策を企画し、実行する</li><li>・寄贈図書の管理</li><li>・新校舎への移転に関する具体的な検討</li></ul>



## 2016 年度 委員会活動 実施状況 報告書

### 入試委員会

<p>&lt;実施内容&gt;</p> <p>入学試験の実施、高校訪問の実施、体験入学会・オープンキャンパスの実施</p>
<p>&lt;実施内容の検討過程&gt;</p> <p>4月16日の第1回入試委員会、6月4日の第2回入試委員会、さらに7月9日の第3回入試委員会で上記実施内容の詳細を確定させた。</p>
<p>&lt;実施日（時期）&gt;</p> <p>入学試験</p> <p>①第1期 AO 入試 8/20    ②第2期 AO 入試 9/10    ③第3期 AO 入試 10/15 ④指定校推薦入試 11/12    ⑤公募制推薦入試 11/26 ⑥第4期(特待生選抜)AO 入試 12/3    ⑦第5期 AO 入試 1/14 ⑧第1期一般・社会人入試 2/4    ⑨第6期 AO 入試 2/18 ⑩第2期一般・社会人入試 3/4    ⑪第7期 AO 入試 3/11</p> <p>入試委員会（2017年2月10日現在）</p> <p>①4月16日：今年度の活動目標、指定校決定、特待生候補検討、高校訪問の実施方法 ②6月4日：特待生候補決定、入試当番、入試問題の検討、ホームページの更新 ③7月9日：入試問題、各入試の配点、面接・小論文・志望理由書の採点項目と採点基準 （広報委員会と合同）：今年度の体験入学会とオープンキャンパスについて ④2月6日：（広報委員会と合同）：利用可能な奨学金、入試広報戦略の検討</p>
<p>&lt;実施結果&gt;</p> <p>3月13日現在、体験入学会およびオープンキャンパスの参加者合計は542名で、前年度を58名上回った。これと連動して、志願者も前年度より32名増加して計105名で、合格者数が前年度を24名上回る96名だった。辞退者3名を除いた入学予定者は93名で、定員を確保すると同時に、目標の90名を確保することができた。</p>
<p>&lt;今後の課題&gt;</p> <p>定員確保を継続していくための入試広報戦略、ならびに女子学生を増加させる広報戦略を、今年度と同様、広報委員会と合同で考えていく必要がある。また、大学中退者がある程度いることから、願書のフォーマットを変更する必要がある。</p>

## 2016年度 委員会活動 実施状況 報告書

### 行事運営委員会

#### <実施内容>

学外レクリエーションと交通見学会の実施、オリエンテーション、ガイダンス、専門ゼミ説明・発表会の実施、オープンキャンパス・体験入学会の実施

#### <実施内容の検討過程>

5月9日の第1回行事運営委員会および5月24日の第2回行事運営委員会で、それぞれの行事内容を検討した。

#### <実施日（時期）>

- ・学外レクリエーション： 5月23日（月）ボーリング大会
- ・交通見学会： 10月29日（土）貸切列車で行く銚子電鉄貸切・車両基地見学
- ・専門ゼミ説明・発表会 12月24日（土）
- ・体験入学会
  - ①第1回 4/23      ②第2回 5/7      ③第3回 5/21      ④第4回 6/4
  - ⑤第5回 7/2      ⑥第6回 8/6      ⑦第7回 9/3      ⑧第8回 10/1
  - ⑨第9回 10/22    ⑩第10回 5/21    ⑪第11回 12/10    ⑫第12回 1/28
  - ⑬第13回 2/25    ⑭第14回 3/25
- ・オープンキャンパス
  - ①第1回 6/18      ②第2回 7/23      ③第3回 8/27

行事運営委員会（2017年2月10日現在）

- ①5月9日：学外レクリエーション、交通見学会、第1回オープンキャンパスについて
- ②5月24日：交通見学会について

#### <実施結果>

10月29日に実施した交通見学会は、池袋駅から貸切列車で行く初の試みであったが、銚子電鉄の貸切・車両基地見学と合わせて好評だった。

#### <今後の課題>

以前から課題となっている東京モーターショー見学を、違うものに変更できるか検討する必要がある。

## 2016 年度 行動計画事項 実施状況 報告書

事務運営委員会

<p>&lt;行動計画&gt;</p> <p>奨学金等の紹介対象を拡大するための検討</p>
<p>&lt;実施計画の検討&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・従来からある学生支援機構の奨学金に加えて、より広範囲な学生をカバーできると考えられる「オリコ学費サポートプラン」（学生ローン）の取り扱いを検討した。</li></ul>
<p>&lt;実施日（時期）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・2016年9月から具体的な導入の検討を開始した。</li><li>・2016年10月からホームページ上に掲載し紹介を開始した。</li></ul>
<p>&lt;実施結果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・2016年12月に1件の利用があった模様。</li></ul>
<p>&lt;今後の課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・どこまで需要が伸びるかは不明だが今後も利便性が高く安全な奨学金や学生ローンの開拓を進め入学の機会を広げ退学の危機を抑える。</li></ul>

## 2016 年度 委員会活動 実施状況 報告書

### 進路委員会

<p>&lt;実施内容&gt;</p> <p>卒業時に進路確定者を 100%にする。</p>
<p>&lt;実施内容の検討過程&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 就職セミナーの実施</li><li>・ 鉄道系求人を知に知らせる</li><li>・ NR・クレペリン検査の実施</li><li>・ SPI 探索模試の実施</li></ul>
<p>&lt;実施日（時期）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 就職セミナーの実施 9月 2月 3月</li><li>・ 鉄道系求人を知に知らせる 随時</li><li>・ NR・クレペリン検査の実施 クレペリン 4月 NR 検査 12月</li><li>・ SPI 探索模試の実施 1月 2月</li></ul>
<p>&lt;実施結果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 就職セミナーの実施 参加者 9月 3名 2月 23名</li><li>・ 鉄道系求人を知に知らせる 随時</li><li>・ NR式知能検査は、12月実施 1年生対象 32名受検</li><li>・ クレペリン検査は、4月実施 1年生 60名受検 2年生 41名受検</li><li>・ SPI 探索模試の実施 付き 1月 70名 2月 17名</li></ul>
<p>&lt;今後の課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 鉄道系企業への内定が昨年に比べ減少したので、今後、さらに意識を高めていきたい。</li><li>・ オリエンテーション時に、就職活動の話を意識させる。</li><li>・ 保護者対策の検討</li></ul>

## 2016 年度 行動計画事項 実施状況 報告書

### IT 委員会・広報委員会

<p>&lt;行動計画&gt;</p> <p>本学の学習内容や学生生活をわかりやすく入学手続き者に伝える施策として、Web サイトで情報を定期的に配信する（実施中）</p>
<p>&lt;実施計画の検討&gt;</p> <p>引き続き IT 委員会を中心として、Web サイトに掲載できる記事について検討する。とくに入学予定の学生に対しては、3 月に Web サイトに twitter や本学メールについての案内を掲載する予定である。</p>
<p>&lt;実施日（時期）&gt;</p> <p>年間を通して継続的に行っている。</p>
<p>&lt;実施結果&gt;</p> <p>今年度（2017 年 2 月 24 日まで）の投稿記事数は 22 となり、1 ヶ月に平均 2 回程度の更新となり、ある程度は定期的に配信されているが、オープンキャンパスや体験入学会等のイベント告知についてのお知らせを除くとコンテンツは充実していない。Twitter については、イベント時に何回かのツイートを行い、リツイートされているものもあるが、Web サイトの記事更新のツイート以外では、年間を通して定期的に配信するには至っていない。</p>
<p>&lt;今後の課題&gt;</p> <p>学習内容や学生生活について、本学を志す学生に対し広報する必要はあるものの、学内の教職員で適切なタイミングで配信を行うことには限界があるため、コンテンツの作成については外部業者と連携し、記事の企画・作成を行っていく必要がある。</p>

## 2016 年度 行動計画事項 実施状況 報告書

IT・広報委員会

<p>&lt;行動計画&gt;</p> <p>財務情報のWebサイト上での公開内容について、新しい会計基準を踏まえて、図表等を用いたわかりやすい情報公開の在り方を検討する。</p>
<p>&lt;実施計画の検討&gt;</p> <p>IT委員会では、資料を入手次第、掲載する体制は整っている。</p> <p><u>*財務データの概要版（案）を作成し、理事会で検討中。今年度中に公開予定。</u></p>
<p>&lt;実施日（時期）&gt;</p>
<p>&lt;実施結果&gt;</p>
<p>&lt;今後の課題&gt;</p>

## 2016 年度 行動計画事項 実施状況 報告書

広報委員会

<p>&lt;行動計画&gt;</p> <p>今年度入学者定員割れのため、来年度 90 名確保を目指す。</p>
<p>&lt;実施計画の検討&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・入試・広報拡大委員会を行い、出願者増員を目指す。</li><li>・リクナビ・マイナビのみの広報からの脱却</li><li>・オープンキャンパス・体験入学会からの導線の検証</li></ul>
<p>&lt;実施日（時期）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・入試委員会の提案により、オープンキャンパス・体験入学会不参加でも出楽できるシステムとなった。</li><li>・ランセンスアカデミー社の進学セミナー参加、岩倉高校への進学セミナーへの参加、新校舎・就職率アップの広告を作り高校に配布</li></ul>
<p>&lt;実施結果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・オープンキャンパス・体験入学会不参加で受験者 9 名</li><li>・進学セミナー 10 回参加。合計 21 名の高校生に案内。 岩倉高校 進学セミナー 55 名の学生に案内。</li><li>・来年度の合格者 2 月 28 日現在 合格者で手続き完了者 90 名</li></ul>
<p>&lt;今後の課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・まだ、導線が見えないので、来期は、短大 HP の発見性を高める</li><li>・継続して、高校生との接触できるメディアの検討</li></ul>

## 2016年度 行動計画事項 実施状況 報告書

### 自己点検・評価委員会

<p>&lt;行動計画&gt;</p> <p>建学の精神に関する情報共有に関するテストの実施</p>
<p>&lt;実施計画の検討&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・11月21日、12月12日の委員会にて、実施方法、質問形式、質問内容等について委員会で審議。</li><li>・選択肢を設け、穴埋め式の質問形式とし、建学の精神、教育理念、教育目的・目標および3つのポリシーに関してテストを実施することとした。</li><li>・実施時期は、基礎ゼミ、専門ゼミの最終授業日に抜き打ち（事前予告なし）で実施することとした。</li></ul>
<p>&lt;実施日（時期）&gt;</p> <p>基礎ゼミ 2017年1月30日 専門ゼミ 2017年1月24日～1月30日</p>
<p>&lt;実施結果&gt;（別紙参照）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・建学の精神である「質実剛健」という意味は、ほぼ全ての学生（98%）が理解していた。</li><li>・教育理念については、「交通産業」および関連分野で専門家として実践力を持つ人材の育成については、7割以上の学生が理解していたが、その他は2割前後の学生しか理解できていない。</li><li>・教育目的・目標については、交通産業関連で活躍するための基礎能力を身につけさせる、情報社会に対応するための基本処理能力を強化する、の2点は比較的理解しているが、その他の理解度は低い。</li><li>・アドミッションポリシーについては、協調性を有する者、カリキュラムポリシーについては、情報化社会に対応するためのITスキルを身につける、の理解度が高かったが、その他の項目の理解度は低かった。</li><li>・ディプロマポリシーの理解度は比較的高かった。</li><li>・全体的に地域や社会の発展に貢献する「倫理観」という用語の理解度が低い結果となった。</li></ul>
<p>&lt;今後の課題&gt;</p> <p>教育理念、教育目的・目標および3つのポリシーの中で、同じ意味でも文言が異なる箇所（例：情報社会、情報化社会、交通産業、交通産業関連、交通産業および関連分野）があるので、一言一句、正確に理解するのは難しいように思われる。</p> <p>建学の精神、教育理念、教育目的・目標および3つのポリシーを要約（文言の統一も含む）した簡易版のパンフレット（ポイントを図等を用いて表示）を作成し、リーフレットと共に配布し、どのような学生を求め、どのようなことを身に付け、どのような人材を世に送り出すか、について周知させるのも一案ではないであろうと考えられる。</p>



## 2016 年度 行動計画事項 実施状況 報告書

### 自己点検・評価委員会

<p>&lt;行動計画&gt;</p> <p>2015 年度に作成した「東京交通短期大学で学ぶにあたってのリーフレット」の内容や配布方法について見直しを図る。(実施済み)</p>
<p>&lt;実施計画の検討&gt;</p> <p>第三者評価のための資料整理の段階で、リーフレットを見直し、一部加筆・修正した。</p>
<p>&lt;実施日(時期)&gt;</p> <p>2016 年 8 月 12 日、20 日の自己点検・評価委員会にて検討。</p>
<p>&lt;実施結果&gt;</p> <p>リーフレット内の文章を学生要覧の文章に差し替え、整合性をとると共に、建学の精神、教育理念、教育目的・目標に接する機会が増加した。</p>
<p>&lt;今後の課題&gt;</p> <p>建学の精神等に関するテストを実施し、その結果を踏まえて、内容、配布方法、周知方法について検討する必要がある。</p>

## 2016 年度 行動計画事項 実施状況 報告書

研究委員会

<p>&lt;行動計画&gt;</p> <p>2016 年度以降も、教育研究費の充実を引き続き図る。</p>
<p>&lt;実施計画の検討&gt;</p> <p>平成 28 年度第三者評価において、教育研究費の比率が依然として低いことから、短期大学評価基準の一部を満たしていないとの指摘が短期大学基準協会から通知があった。</p> <p>これを受けて、松岡学長、高橋学科長が理事と面談・交渉を 12 月末および 1 月初旬に実施した。</p>
<p>&lt;実施日（時期）&gt;</p> <p>12 月末～1 月初旬</p>
<p>&lt;実施結果&gt;</p> <p>教育研究費として、</p> <ol style="list-style-type: none"><li>① 奨学金の充実</li><li>② 外部講師を利用した講習会等の開催</li><li>③ 新校舎でも使用可能な備品整備</li><li>④ 旅費交通費における新制度の設立</li></ol> <p>の 4 点について、今後、推進していくこととなった。</p>
<p>&lt;今後の課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 上述の 4 点について、規程等の新規作成・改正を行い、速やかに実行に移す。</li><li>・ 教員の学会等での発表を活発化し、新制度の旅費交通費の申請・取得状況をフォローし、教育研究費の比率を高める必要がある。</li></ul>

2016 年度 委員会活動 実施状況 報告書

研究委員会

<p>&lt;実施内容&gt; 平成 28 年度研究会の開催</p>
<p>&lt;実施内容の検討過程&gt; 平成 27 年度</p>
<p>&lt;実施日（時期）&gt; ・平成 28 年 4 月 8 日(金)13：00～</p>
<p>&lt;実施結果&gt; 第 1 報告：「自由作文の総合評価指標算出～語彙、文法、意味の自動抽出とその評価」 報告者：岸 康人 教授 第 2 報告：「新聞投稿短歌が描く路線バスの世界」 報告者：湯田 聡 講師</p>
<p>&lt;今後の課題&gt; 引き続き、専任教員、非常勤講師による 2 名の報告体制を維持するとともに、互いの研究分野について可能な限り理解を深める。</p>

## 2016 年度 委員会活動 実施状況 報告書

研究委員会

<p>&lt;実施内容&gt;</p> <p>研究論文、卒業論文（含む自由研究論文）のフォーマットの統一</p>
<p>&lt;実施内容の検討過程&gt;</p> <p>平成 28 年 6 月 13 日、7 月 9 日</p>
<p>&lt;実施日（時期）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・本年度発刊の学生論文集、研究紀要から適用</li></ul>
<p>&lt;実施結果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・卒業論文に関しては、統一フォーマットが完全には周知されておらず、各ゼミから推薦された優秀論文のフォーマットに、バラツキが見られた。</li></ul>
<p>&lt;今後の課題&gt;</p> <p>校正作業を効率化する観点からも、卒業論文、自由研究論文執筆に際して、専門ゼミ・基礎ゼミで更なる周知・指導をお願いしたい。</p>

## 2016 年度 委員会活動 実施状況 報告書

### 研究委員会

<p>&lt;実施内容&gt;</p> <p>研究倫理に関する規程類の整備について</p>
<p>&lt;実施内容の検討過程&gt;</p> <p>平成 26 年 8 月 26 日文部科学大臣決定の「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」を受け、他大学の例を参考に事務局森田さんがたたき台を作成。</p> <p>平成 28 年 10 月 18 日に臨時研究委員会を開催し、検討。</p> <p>「研究倫理綱領」</p> <p>「東京交通短期大学における研究データの保存等に関するガイドラインについて」</p> <p>「東京交通短期大学 研究活動における不正行為等の防止及び対応に関する取扱い規程」を整備し、11 月 7 日の教授会で承認された。</p>
<p>&lt;実施日（時期）&gt;</p> <p>「研究倫理綱領」</p> <p>→11 月 7 日付で発効</p> <p>「東京交通短期大学における研究データの保存等に関するガイドラインについて」</p> <p>→決定日を 11 月 7 日、施行日を平成 29 年 4 月 1 日とした。</p> <p>「東京交通短期大学 研究活動における不正行為等の防止及び対応に関する取扱い規程」</p> <p>→→11 月 7 日付で発効</p>
<p>&lt;実施結果&gt;</p> <p>総括管理責任者（高橋真悟教授）、研究倫理教育責任者（岸康人教授）、コンプライアンス管理責任者（栗田善吉）の体制で、不正行為や研究データの保存に取り組む。</p>
<p>&lt;今後の課題&gt;</p> <p>本年度発行の研究紀要や、科研費を申請した研究成果等に対して、厳正な管理に取り組む</p>

## 2016 年度 委員会活動 実施状況 報告書

### 研究委員会

<p>&lt;実施内容&gt; 研究倫理教育の実施について</p>
<p>&lt;実施内容の検討過程&gt; 平成 29 年度より、科研費の申請の有無に関わらず、非常勤講師も含めた全ての教員が研究倫理に関する教育を受けなければならなくなった（毎年 1 回）。</p>
<p>&lt;実施日（時期）&gt; 臨時研究委員会（2 月 15 日実施）での、研究倫理教育の実施方法について審議</p>
<p>&lt;実施結果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・専任教員は、日本学術振興会が提供している「研究倫理 e ラーニングコース」を受講し（動画を閲覧して、質問に答える形式）、修了証明書を研究委員会に提出。</li><li>・非常勤講師は、日本学術振興会の Web サイトから取得できる「日本学術振興会『科学の健全な発展のために』編集委員会編『科学の健全な発展のために-誠実な科学者の心得-』丸善出版株式会社、2015（平成 27）年」を用いて学習してもらい、学習したか否かのチェック表に記入してもらい、研究委員会で保管。</li><li>・詳細については、新年度が始まってから、周知する。</li></ul>
<p>&lt;今後の課題&gt; 各教員が確実に実施するように周知・徹底する必要がある。</p>

## 2016 年度 行動計画事項 実施状況 報告書

### FD・SD委員会

<p>&lt;行動計画&gt;</p> <p>FD・SD委員会の開催数を増やして、FD活動の活性化を図る施策を講じる。 (実施済)</p>
<p>&lt;実施計画の検討&gt;</p> <p>6月4日の第1回FD・SD委員会で今年度の活動について審議し、FD研究会の実施とSD活動の実施を決定した。</p>
<p>&lt;実施日(時期)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・6月4日(土)第1回FD・SD委員会</li><li>・10月29日(土)FD研究会の準備として専門ゼミ担当者会議を開催 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">FD活動</span></li><li>・11月19日(土)第2回FD・SD委員会</li><li>・12月12日(月)基礎ゼミ自由研究の発表への全教員参加 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">FD活動</span></li><li>・12月24日(土)専門ゼミ発表会への全教員参加 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">FD活動</span></li><li>・1月23日(月)FD研究会 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">FD活動</span></li><li>・1月30日(月)基礎ゼミ担当者会議 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">FD活動</span></li><li>・2月27日(月)FD・SD委員会、ハラスメント防止委員会合同研修会 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">SD活動</span></li></ul>
<p>&lt;実施結果&gt;</p> <p>FD・SD委員会としての開催は昨年3回に対して2回だったが、FD活動の活性化を図る施策を講じるため、交通見学会の移動時に専門ゼミ担当者会議を開催することができた。ここでの議論を参考に、現状の1・2年生の論文報告を見たうえで、次年度の基礎ゼミおよび専門ゼミをどのようにするかを検討する「FD研究会」など、上記のFD活動を実行することができた。</p>
<p>&lt;今後の課題&gt;</p> <p>専門ゼミ担当者会議や基礎ゼミ担当者会議を開催するなど、FD活動の活発化を図る施策を実行する点においては前進が見られたが、委員会の開催数が2回だったため、カリキュラム委員会などと合同開催するなど、今後は委員会活動を活発化する必要がある。</p>

## 2016 年度 行動計画事項 実施状況 報告書

FD・SD委員会

<p>&lt;行動計画&gt;</p> <p>SD活動のさらなる活性化のために、外部研修を中心とした活動を2016年度以降も実施する。(実施済)</p>
<p>&lt;実施計画の検討&gt;</p> <p>従来参加した研修会に加えて、今年度は研究倫理やスタッフ・ディベロップメント (SD) に関する研修会に参加することになった。</p>
<p>&lt;実施日 (時期) &gt;</p> <p>①7月4日 研究活動における不正行為への対応等に関する説明会 (森田)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・平成27年度履行状況調査結果等説明</li><li>・有識者会議委員講演、取り組み事例紹介</li></ul> <p>②11月25日 東京都私立短期大学協会 平成28年度秋季フォーラム参加 (森田)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「スタッフ・ディベロップメント (SD)」の取組について</li><li>・グループ別情報交換会</li></ul> <p>③1月27日 CITI JAPAN プロジェクト最終報告会 (第3回研究倫理教育責任者・関係者連絡会議) (森田)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・全大会 (研究倫理の教育方法・内容とAPRINへの期待)</li><li>・分科会 (人文・社会科学系)</li></ul> <p>④2月2日 RICOH ソリューションフォーラム 「高めよう!企業の防災力」 (反保)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・事業者の防災対策、計画</li><li>・帰宅困難者対策等</li></ul>
<p>&lt;実施結果&gt;</p> <p>今後重要となる研究倫理やSD活動に関する外部研修会に参加し、必要な情報を収集することができた。</p>
<p>&lt;今後の課題&gt;</p> <p>SD活動については、外部研修などで得た情報をもとに具体的な内容を検討していく必要がある。</p>



## 2016 年度 行動計画事項 実施状況 報告書

FD・SD委員会

その他、検討・実施事項がありましたら、追加でご提出お願い致します。

### <実施内容>

授業評価アンケートの実施

### <実施計画の検討>

6月4日の第1回FD・SD委員会で授業評価アンケートの実施を決定し、前年度と同様の方法で行うことにした。

### <実施日（時期）>

前期

・2016年7月9日（土）～7月25日（月）

後期

・2017年1月10日（火）～1月23日（月）

### <実施結果>

昨年度と同様、前期は前期実施科目のみ、後期は後期実施科目と通年科目の授業評価アンケートを実施した。前期については、例年と比較して特別悪いという科目は見当たらなかった（後期については返却が来年度のため、現段階では不明）。

また、昨年度と同様に、科目群ごとの結果を図書室（学生向け）と事務室（教員向け）にて公表し、各教員に対しては担当科目のアンケート結果を受けた所見を提出してもらった。

### <今後の課題>

現状では科目群ごとの結果を公表しているが、それ以上の結果を公表するかどうかをFD・SD委員会で検討する必要がある。

## 2016年度 行動計画事項 実施状況 報告書

FD・SD委員会

<p>&lt;実施内容&gt;</p> <p>SD 活動の実施</p>
<p>&lt;実施計画の検討&gt;</p> <p>6月4日の第1回FD・SD委員会でSD研究会の実施を検討し、11月9日の第2回FD・SD委員会で、2017年2月27日の卒業判定会議後にFD・SD委員会、ハラスメント防止委員会合同研修会を開催することを決めた。</p> <p>実施はハラスメント防止委員会と共催で、前年度に引き続き、ハラスメントに関する勉強会を行うこととした。</p>
<p>&lt;実施日（時期）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・2017年2月27日（月）16:00～17:30</li><li>・本学201教室</li><li>・講師：安藤達矢氏</li></ul>
<p>&lt;実施結果&gt;</p> <p>2016年度に引き続き、安藤達矢氏を講師として招き、ハラスメント防止について講義をしてもらった。内容は、ハラスメント全般に関する説明の後、パワー・ハラスメント（パワハラ）とセクシャル・ハラスメント（セクハラ）を中心とした講義が行われた。後半ではショートケースを対象にしたディスカッションや質疑応答が行われた。</p> <p>昨年と重複する部分もあったが、昨年度はなかったパワハラ、セクハラの具体的事例について学習することができた。</p>
<p>&lt;今後の課題&gt;</p> <p>パワハラとセクハラについては理解が深まったが、アカデミック・ハラスメント（アカハラ）に関する内容がまったくなかったので、今後はこれらも入れた研修会を行う必要がある。</p>

## 2016 年度 委員会活動 実施状況 報告書

### ハラスメント防止委員会

<p>&lt;実施内容&gt;</p> <p>ハラスメント防止委員会では、2016 年度に、①ハラスメントの防止に関する講習会の実施、②ハラスメントの防止に関するパンフレットの作成等を実施した。</p>
<p>&lt;実施内容の検討過程&gt;</p> <p>ハラスメント防止委員会を開催して、上記の 2 つの項目に関して、検討を行った。</p> <p>①2015 年度に引き続き、講習会を開催する。→ハラスメントに関して、大学での具体的事例を挙げて、講習会を開催する。講師は前回に引き続き、安藤達矢氏に依頼することになった。</p> <p>②パンフレットを作成する。→他大学の例を参考に、叩き台を藤井准教授に依頼することになり、これを基に内容を検討することになった。</p>
<p>&lt;実施日（時期）&gt;</p> <p>○委員会開催日</p> <p>第 1 回：2016 年 6 月 13 日（月）15:00～15:30</p> <p>第 2 回：2016 年 11 月 19 日（土）19:00～19:30</p> <p>第 3 回：2017 年 1 月 28 日（土）16:00～17:00</p> <p>○ハラスメントの防止に関する講習会の実施</p> <p>2017 年 2 月 27 日（月）16:00～18:00</p> <p>○ハラスメントの防止に関するパンフレットの作成</p> <p>2017 年 4 月に配布予定</p>
<p>&lt;実施結果&gt;</p> <p>○ハラスメントの防止に関する講習会の実施</p> <p>上記のように、2017 年 2 月 27 日（月）16 時～18 時に実施したが、出席者は、専任教員 8 名、専任職員 1 名の計 9 名であった。</p> <p>○ハラスメントの防止に関するパンフレットの作成</p> <p>上記のように、2017 年 4 月に配布予定であるが、配布先は、全教職員・学生の予定である。</p>
<p>&lt;今後の課題&gt;</p> <p>本学では、2015 年度に、「東京交通短期大学ハラスメントの防止に関する規程」、「東京交通短期大学ハラスメント等人権侵害防止ガイドライン」を作成したが、作成して間もない事から、実態をもとに内容の見直し等を行うことが必要である。</p> <p>講習会も 2 回しか開催されてない事から、開催頻度を増すと共に、パンフレットの内容の定期的な見直し等も今後の課題として挙げられる。</p>